

# 水稲・大豆の生育と管理

令和元年9月号

北部振興局集落営農・農地活用第一班

## ～水稲～

### ◎穂いもちの防除

今年はいもち病の発生しやすい好適条件が、6月下旬から続きました。

穂いもちの防除は「穂ぼらみ期+穂揃い期（どちらも液剤又は粉剤）」が効果的です。雨が続いて防除ができない場合でも、一時的な雨の合間を狙ってなるべく適期に防除を行う方が、天気が回復してから遅れて防除するより効果があります。

いもち病の防除薬剤

薬剤名	希釈倍率	10aあたり散布量 (使用量)	対象病害虫	使用時期
ブラシンバリダフロアブル	1,000倍	60～150L	いもち病、紋枯病、ごま葉枯病	収穫14日前まで
ビームアプロード スタークル粉剤5DL	—	3～4kg	いもち病、ウンカ類、 カメムシ類、ツマグロヨコバイ	

※薬剤ごとに使用時期・使用量が異なるのでラベル等をよく読み使用しましょう。

### ◎トビイロウンカ

今年早い時期からトビイロウンカの発生が確認されています。9月頃になると急増し、坪枯れが発生します。

トビイロウンカは株元で成育しますので、防除を行う際は薬剤が株元まで届くように散布しましょう。



### ◎斑点米カメムシ類

吸汁加害により品質低下を引き起こします。畦畔の草刈りで被害を抑えることができるので、出穂期の10日前までに草刈りを行いましょう。それ以降に行うとカメムシが水田に逃げ込み、被害を助長させてしまいます。



薬剤による防除は穂揃い期とその7～10日後の2回行いましょう。

ウンカ類、カメムシ類の防除薬剤

薬剤	希釈倍率	10aあたりの散布量 (使用量)	使用回数	使用時期
キラップフロアブル	1,000～2,000倍	100L	2回以内	収穫14日前まで
スタークル液剤10	1,000倍	60～150L	3回以内	収穫7日前まで
ダブルカットスタークル粉剤DL	—	3～4kg	2回以内	穂揃い期まで

※薬剤ごとに使用時期・使用量が異なるのでラベル等をよく読み使用しましょう。

裏面へ

# ～大豆～

## ◎紫斑病とカメムシ類

紫斑病とカメムシ類は幼莢期と子実肥大期の2回、同時に防除を行いましょ。う。

紫斑病の発生は品質低下を、カメムシ類の被害は収量と品質の低下、さらに青立ち株の発生を招きます。



薬剤名	希釈倍率	10aあたり散布液量	対象病害虫	使用時期
アミスター20フロアブル	2,000～3,000倍	100～300L	紫斑病	収穫7日前まで
バルコート水和剤	1,000倍	150～300L		
スタークル液剤10	1,000倍	100～300L	カメムシ	
キラップフロアブル	2,000倍			

※薬剤ごとに使用時期・使用量が異なるので、ラベル等をよく読み使用しましょ。う。

## ◎ハスモンヨトウ ～白い葉が防除の目印～

ハスモンヨトウは大きくなると防除効果が落ちるため若齢幼虫期の薬剤防除が重要です。

早期発見と地域での一斉防除で被害を最小限に抑えましょ。う。

薬剤防除は夕方に、葉の両面に散布しましょ。う!!



薬剤の特徴	薬剤名	希釈倍率	10aあたり散布量(使用量)	使用時期
脱皮阻害剤	ロムダン粉剤DL	—	4kg	収穫14日前まで
長期残効剤	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	100～300L	収穫7日前まで
	プレバソンフロアブル5	4,000倍		

※薬剤ごとに使用時期・使用量が異なるので、ラベル等をよく読み使用しましょ。う。

## マムシに注意!!

マムシが出ている地区があります。

8～10月頃が攻撃的になるので注意をしてくださ。い。

農作業をする際は長靴を履くなど、対策を行うようしましょ。う。